

第16回神奈川産学チャレンジプログラム

最優秀賞に5チーム

8チームが優秀賞



入賞チームによるプレゼンでチラシ配布を演じる湯浅チーム

神奈川県内の企業や団体が抱える経営課題に、大学生が解決策を提案する産学連携の課題解決型コンペ「第16回神奈川産学チャレンジプログラム」(一般社団法人神奈川経済同友会主催)で、専大からは5チームが最優秀賞に、8チームが優秀賞に選ばれた(別表参照)。今回は32企業から35チームが提示され、21大学213チームが参加。12月17日、横浜市のパシフィコ横浜で表彰式が行われた。

式では、入賞チームを代表して3チームが提案内容を発表。専大からは経営・福原康司ゼミの湯浅秀人さん、船ヶ山知斗さん、阿久澤奈菜さん、岡本泉さん(いずれも3年次)のチームがプレゼンテーションを行った。独自のマーケティング戦略を求めた大塚製薬横浜支店に、湯浅チームが提案したのは「生活者が自然と手に取るマーケティング」。街頭アンケートなど2回のフィールドワークで得た顧客の声を反映させ、働き盛りの男性をターゲットに、通勤用をターゲットに、通勤で利用する駅で行う広報

戦略を考案した。プレゼンでは、同社の商品を飲んで睡眠の質を向上させる「快眠急行」をコンセプトとした切符型の広告や、ユニークなデザインの服を着ての試飲とチラシの配布といった認知度向上プランを、実演を交えて発表した。湯浅さんは「全員が納得できる提案になるまで何度も議論した。妥協せずにより良いものを作り上げる姿勢が大切だと感じた。日ごろ学んでいる理論を実行に移す貴重な経験となり、ステップアップできた」と成果を語った。

学部	メンバー(先頭が代表)	所属ゼミ	テーマ(企業)
経営	湯浅 秀人 岡本 泉 船ヶ山知斗 阿久澤奈菜	福原康司	神奈川県における大塚製薬製品の独自マーケティング戦略の提案(大塚製薬株式会社横浜支店)
	李 傲 梶 佑太 竹田優里花 広井 久美		ICTを活用した建設業界の労働環境改善策(京急建設株式会社)
商	伊藤 彩乃 藤井 侑穂 見原 孝司	石川和男	神奈川県内の一般消費者をターゲットとした、ヨコソーのコア事業である大規模修繕工事とのシナジーを生む『新規ビジネス』の提案(株式会社ヨコソー)
	小泉 颯 橋本 照平 大崎 柚香		「よろず相談承り処」の活性化を通じた「かなしん」のイメージアップ策の検討〜「強くてやさしい」を掲げる「かなしん」がより地域のお役に立つために〜(かながわ信用金庫)
	堀井 彩登 岡田 大輝 大澤 拓真		神奈川県下の災害時における帰宅困難者対策について(ミドリ安全株式会社神奈川支社)

学部	メンバー(先頭が代表)	所属ゼミ	テーマ(企業)
経営	鹿嶋 奎太 川端 沙妃 柳澤 菜邑 白石 はる	関根 純	平林 亮介 齋藤 唯人 木村 優友 小林 未奈
	佐藤 康平 武井 千穂 壹岐侑里香 升木 琴菜		宿里 悠奈 大村 恭介 浅野 桜 新田 智也
	島田祥太郎 須賀田 優 山村 鈴音 土屋 勇介		菅 祥利 山岸 萌音 横幕 将大 兼頭 京伽
商	松村 直哉 川田 祐華 内菌 悠	馬場杉夫	高林加寿哉 本橋 幸奈 米田 光希 長南 勇毅

※敬称略。全員3年次



悩みながらつつかんだ成果

理論と実践を通しリーダーシップ能力を身につける「専修リーダーシップ開発プログラム」第7期・蒼翼の学舎。12月19日、最終報告会が生田キャンパスで開かれた。同講座は、キャリアデザインセンターが行っているPBL(課題解決型学習)プログラムの一つで、今年度より経営学部正課授業とのハイブリッド講座として開講。毎週2コマの連続講座と、企業や自治体などを行う学外でのテーマ活動に21人が挑んだ。

建設フェスタでの活動を報告する4人

リーダーシップ開発プログラム

報告会では全5チームが9カ月間活動し、悩み続け、最後によりよく見いだした自分たちなりのリーダーシップについて発表した。

Cool Japan TV(東京都)がプロデュースするインバウンド市場での企画に取り組んだのは1年次生6人。渋谷の商店街でハロウィーンに合わせた体験型ゲームを企画した。しかし店の協賛はほとんど得られず、集客も伸びなかった。原因としてメンバーは「意見がバラバラで、相手に寄り添う姿勢が足りなかった」と振り返る。茨城県建設業協会が開催する「建設フェスタ」で、建設業の魅力やPRする企画を実施したチ



新成人代表し決意 元受講生の鹿間さん

リーダーシップについて学んだことで、活躍の場を広げる受講生もいる。1年次にリーダーシップ開発プログラムを受講し、2年次ではチューターとして関わった鹿間いぶきさん(商2)は1月13日、地元・千葉市の成人式で、約1万人の新成人を代表し、「二十歳の決意」を述べた。

「高校生までは新しいことを始めるのが怖かった。講座での貴重な体験がなければ、志願しようなんて思わなかった」と言う鹿間さん。自分を変えられる出会いがある。ぜひ講座を受講し、新たな一歩を踏み出してほしい」

リーダーシップ開発プログラムの来年度受講生(8期生)は、3月中旬からキャリアデザインセンター事務課で募集を開始する予定。



賞状を手笑顔の大岩さん(左)と横坂さん(右)2月6日

学生ビジネスプランコンテスト アイデア賞

経営学部・目黒良門ゼミ生が、学生ビジネスプランコンテストでアイデア賞を受賞した。2月6日、都内で表彰式があり、表彰状や賞金が贈られた。

コンテストは一般財団法人学生サポートセンターの主催。創造性にあふれ、自分で考え行動できる学生を育てることを目的に、毎年開催しており14回目。全国の大学や専門学校などから150件以上の応募があった。アイデア賞を受賞したのは大岩高明さん、藤野高史さん、堀江勇輝さん、横坂裕奈さん(いずれも3年次)のチーム。「ボックス・フォー・キッズ」と題し、子ども用品の定額レンタルサービスを考案した。最近注目されているビジネスモデル「サブスクリプション(定額課金)」に着目し、社会問題になっている子どもの貧困に貢献できないか考えた。目黒教授から「儲けより社会的意義を重視したアイデアを」とのアドバイスを受け、使わなくなっ

たおもちゃや洋服、絵本などの子ども用品を再利用し、希望者にまとめて提供する。さらに売り上げの一部を使って、世界の貧困層の乳児にワクチン(三種混合ワクチン)を贈るという案を提案した。目黒ゼミは今年度スタート。大岩さんは「手本となる先輩もいなかったので手探りだったが、毎週のゼミや夏合宿で意見を出し合い、いいアイデアをまとめることができた。これからも社会で何が起きているかしっかり勉強していきたい」と話す。